

(仮称)厚生産業会館

「基本構想の見直しはせず」に怒りと批判の声相次ぐ

住民自治と合併問題を考える会、くびき野地域問題研究会共催の「(仮称)厚生産業会館の現状と問題点を探る勉強会」が18日、市民プラザで開催されました。参加者は30人ほどでしたが、活発な意見交換が行われました。

最初に住民自治と合併問題を考える会の佐藤忠治会長が、「高田区地域協議会にとどまらず、他区地域協議会委員や多くの市民の関心事になっている。忌憚のない意見を出し合い、実りのある会にしてほしい」と挨拶しました。

特別報告(写真左)しました。

その後の意見交換では、高田区地域協議会が先月、市長に提出した意見書に対して、市側がいつさい受け付けない回答をしたこともあって、「文化会館をみてもイベントによっては利用率の低いことがある。果たしてこういう箱物が必要かどうか疑問がある。一から出直すべきだ」などの厳しい批判の声、怒りの声が相次ぎました。

高田区地域協議会が先月29日に市長に提出した意見書は、「基本設計は建設費を含め基本構想とは大きく異なるにもかかわらず、市民に説明もないうまま決定されたことは問題である。改めて市民の声を聞いて基本構想から見直し、諮問していただきたい」というものでした。



確認を行政に迫ることなどを検討している」と答えました。

市当局、基本構想の見直しや再諮問を否定

この意見書への回答が13日にありました。市は回答書の中で、「この度策定した基本設計は、基本構想において定めた施設の目的、方針、建設場所及び施設の内容について変わるものではなく、市民意見を十分聞き、可能な限り市民への説明も行っている。したがって、基本構想を見直し、改めて諮問する考えはない」(要約)としています。

参加者からは「18億でやるよといったものを29億近くでやるよ。議会がクレーム付けないのはおかしい」「共産党議員団が取ったアンケート結果は重い。共産党議員団はそこに示された思いを実現すべく、方針を明らかにしてほしい」という声も出ました。私も議員団からは、「現在、お寄せいただいたアンケートのコメントなどを分析している。改めて市民の意思



【ノコンギク】キク科の多年草。漢字で、「野紺菊」と書きます。雨が降りしきるなかでも紫色の花をきれいに咲かせていました。今年、最後に見る野菊となるかとも思いつながりながら撮影しました。

行革特別委、公の施設使用料改定に疑問の声

14日の行政改革特別委員会で、新行革大綱案、公の施設の使用料の見直しなどについて報告と質疑が行われました。

大綱案については「定員適正化計画」との関連を訊きました。上越市の職員体制は広大な市域に総合事務所などがあるなかで市民サービスをきちんとやれるものでなければなりません。具体的な数値はこれから出てきますが、これ以上の職員削減は無理があると私はみています。委員からは普通交付税についての最新情報に沿った記述を求める声も出ました。

一番賑やかになったのは公の施設の使用料改定です。「受益者負担の適正化」を旗印に、一定の数式に基づき新料金を示すやり方については心配するいろいろな声が出ました。体育施設や集会施設で大幅な引き上げがされる施設も多くあり、今後、地域協議会などで反発の声も上がりそうです。



はしづめ法一の活動レポート

No.1684 2014.11.23
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三三二回

飛び出し芋

一瞬、耳を疑いましたね。「飛び出し芋」という名前を聞いたときのことです。あまりにもどんぴしゃりの名前なので、それこそ「適当」に付けたのではと思っただけです。でも考えてみれば、まさに適当な名前でした。皮の一部をちよつとだけむいて、手で押し出せば、ぐにゅんと芋が出るんですから。

一晩中、雷と雨が賑やかだったときの翌日、私は青野十文字近くの広場で偶数日に開催されている青空元氣市に寄ってきました。駐車場に入った途端、この市のリーダーである徳治さんの目に私の姿が入ったようです。お互いに手を上げて挨拶しました。

この日は仕事が多忙で、あまり時間がなかったのですが、虫が知らせたんです。ね、美味しいものがあるよってね。徳治さんに、「まあまあ、お茶飲んでいきなさい」と誘われて細長い販売テントの中央部にあるテーブルのところに行くと、すでに二人のお客さんが座っていました。

私が座った椅子のすぐ前には、サトイモの親芋のまわりにできる小さな芋の子、白菜とニンジン、カブの酢漬、そして味実菜を漬けたのでしようか、漬け菜のせられていました。

みんな美味しそうなのですが、すぐに手を出したくなかったのは芋の子でした。「これ、おまんた、どう言っている」と訊くと、徳治さんのお連れ合いが、「飛び出し芋」と言われたのです。それを聞いた私が「えっ、飛び出し芋ー、おもしろい名前だね、おらんとこは芋としか言わないで」と言ったら大笑いになりました。私の口からとっさに出たのは「芋」でしたが、わが家では本当は「いもんこ」と呼んでいました。

驚いたのは名前だけではありません。この芋を食べる際に、醤油、あるいはワサビ醤油をつけて食べるというのです。わが家では何もつけずに食べていますし、何かをつけて食べるという話は、私の周りではこれまでひとつも聞いたことがありませんでした。所変われば品変わるとはよく言ったものです。

「飛び出し芋」を食べ、お茶を飲んでるときも、お客さんが次々とやってきます。徳治さんのお連れ合いが誰かに「お茶飲んでいかんかね」と声をかけたら、それに反応して、「おまんの顔、見に来たがど」という言葉も聞こえてきました。

「こうやって知ってる人と顔を合わせて話できるのが最高だね」と私が言うと、徳治さんは、「市をはじめたのはそういうのが目的さ。こういうことやらんと高齢者は力出ないんだよね。いまじゃ高齢者が押し車押しして朝の八時半にはやってくる。みんな楽しくってしようがないって顔してるよ」と言いました。徳治さんによると、近所の高齢者のみなさんに「なんでもいいから持ってきて」と言うと、めずらしいもんを作って持ってきてくれるということです。

青空元氣市では地場産の野菜、食べ物、洋服をはじめいろんなものが並びます。この日、私は、三和区越柳のMさんから孟宗竹の枝に布で作った花を咲かせたものや最近流行の「九南猿（苦難去る）」の手芸作品について楽しい説明を聞いた後、安塚区二本木の「かきもち」や石橋の「中華まんじゅう」を買ってきました。

この日は時折アラレ混じりの雨が降る寒い日でした。でもテントの下では笑顔や笑い声が絶えませんでした。私は芋の子を三個もいただきました。漬物は味が良かったから、私がいなくなつてからもどんどん減つたことでしょう。青空元氣市へ行くと体の中から次々と元気が飛び出してきましたよ。一度、出かけてみませんか。

「母の背中」に花が咲いた…

いかつたねや、この間の大浦安の芝居。家の誰かが病気出してさ、退院してきてから、家のもんで介護しようさつていうのは立派だこて。けどもさ、たいへんさあ、みんな

黙っているでも、芝居のようにさ、家のなかだけでなく、親類まで巻き込んですつたもんだすること、けっこうあると思うよ。でもね、どんなにドタバタすることがあつても、人間、最後は心と心が通じ合いだね、これが大事。

芝居ではおらつたりで使っている言葉で芝居やってるすけ、親しみ感じたねや。「ほしや、おらもここんちで夕飯ごつおになつていくか」か。おらちのばちやのしゃべってるがとおんなじだ。話に出てくることも、みんなどつかで見聞きしてるこて。おむつ替えや風呂に入れる

のがたいへんなとこなんか、おらちの死んだじちゃん時もそうだった。

芝居やったしよ、いっぺこと練習しなつたんだろいね。じちやの役をやつた南雲さん、ふだんのまんまて感じがしたしさ、認知症になつたばちや役の吹山さんもばか上手だったこて。眼をきよろんきよろんさせたり、手をふるわしたりしてさ。それにほかんしよも、上手だった。それにしても「東頸城の歌」、何度聴いてもいいねや。おらの気持ちにぴつたしだ。芝居のなかに歌入れたがもあつたね。そうそう、芝居で歌つた女しよ、ほればれしちやつた。歌がうんまい女しよつて素敵だねや。

芝居が終わつて、みんな、前のほに並んで、しゃべんなつたこて。みんなうれしそうだったなあ。ばちや役の吹山さんなんか、花柄の服着てさ、にこにこしながらくるんとひと回りしなつた。かわいかつたね。背中の花を見た時、オレ、あつと思つたよ、「母の背中」に花が咲いているつて……。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月12日(水)	11月19日(水)
上越南消防署	0.030	0.040
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.060
頸南消防署	0.043	0.043
東頸消防署	0.047	0.053
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.046	0.043

